

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法
大石神影流剣術

貫汪館会報

第76号

発行 貫汪館 発行日 平成二十五年 月 日
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

『貫汪館夏合宿を行いました。』

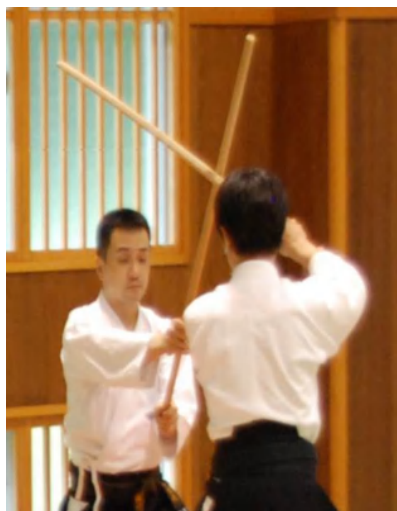
平成25年7月6日・7日の両日、島根県大田市の国立三瓶青少年交流の家にて貫汪館初の夏合宿を行いました。当日はあいにくの天気でしたが、貫汪館本部道場を始め各支部の方々、指導者を中心とした総勢15名が集合して二日間、実りの有る合宿となりました。以下に、竹林さん・濱村さんに合宿の感想を書いて頂きましたので掲載いたします。

(文責 片岡 潤一)

『貫汪館夏合宿』

平成25年7月6日・7日、国立三瓶青少年交流の家において貫汪館初めての合宿を開催しました。

この度の合宿では、初日に難波一甫流の基本稽古で体を完全に脱力させ、相手に体を預けて臍下丹田からの動きを養う稽古から始まりました。その後、澁川一流柔術の形を基本稽古で養った動きでゆっくりと相手とのつながりを感じながら業がかかってくる感覚を養いました。次に六尺棒の棒回しを臍下丹田中心に力まらず流れるように心がけ稽古し、半棒術の形稽古でも同じ理論の元に業が成り立っていることを学びました。続いて澁川一流の居合(抜刀術)の形を数本稽古した後、夕食をはさみ大石神影流の剣術の稽古に入りました。大石神影流ではまず「構え」、「素振り」の稽古を行いながら合宿の初めに行った難波一甫流基本稽古の脱力が剣術の構えにおいても如何に重要であるか、理解を深め、手数の稽古におい



(文責 竹林 哲也)

てもこの構えが不十分であれば形だけのものとなり役に立たないものとなることを理解し1日目の稽古を終えました。入浴の後には、森本先生の古文書の解説の講座が設けられました。古武道を学ぶものとして稽古だけでは流派武術を伝えていくには不十分であることを知る良い機会となりました。合宿2日目、臍下丹田中心の動きを重点に、前日の復習をするとともにその動きを対懐剣、対木刀の澁川一流の形で稽古、大石神影流剣術の手数と正午まで稽古し合宿を終了しました。今回の合宿では、初めに稽古した基本稽古が居合、剣術、柔術のすべてに共通する重要な要素であることを学ぶことができました。また全てに共通するからこそ基本であるということを変更して理解することができました。今回、参加者の一人一人それぞれが自分の至らないところ、今後さらに稽古をしていかなければならないところを知ることができました。更なる上達を目指すため、合宿での経験は今後の稽古に生かせるよう心掛けたいと思います。

『貫汪館夏合宿を終えて』

平成25年7月6日、7日にかけて、島根県大田市の国立三瓶青少年交流の家において、貫汪館初となる合宿による稽古が行われました。

初日は、難波一甫流の基本稽古を通して、力を抜くために、相手に体をあずける稽古をしました。例えば、相手に両肘近くを、持つてもらい腕を上下してもらおうという稽古を行ったのですが、相手が上げよう、下げようとする以上に自分で先走って力を込めて作った動きをしてしまい、どうしても相手に腕を預けきることが出来ませんでした。ただ、素直に力をぬけうちに力が入ってしまいました。どうしても勝手に力む自分の「我」の強さに愕然としました。

その後、難波一甫流の基本が取り入れられた澁川一流柔術の礼式の稽古に進みました。しかし、いつもやり慣れていると思っていた礼式も、先ほど行ったあるがまま、なされるがまま、ただ動くのみという稽古の後に試してみると、いかに今まで自分が形や手順を恣意的に作っていたかが浮き彫りになり、動くことが出来なくなりました。続いて、六尺棒、半棒の稽古を行いました。ここでも手先ではなく、棒の重みを感じながら、体の中心との繋がりを意識しながら流れるように動くように稽古をつけて頂きました。その後の澁川一流の居合も同様に小手先の動きにならないように注意をしていただきました。夕食後、大石神影流剣術の稽古をしましたが、自然に動けるようにおこなって来たこれまでの稽古を忘れ、間に合わせるだけ、形を真似るだけの自分勝手な動きに戻ってしまい、お教えいた

だいた事を素直に出来ない自分に対する苛立ちを抱えたまま、道場での初日の稽古を終えました。入浴後、森本先生より古文書の解説の講義をしていただきました。

2日目は、初日に行った難波一甫流の基本の稽古の後に、懐剣、木刀に對しての澁川一流の応用を学びました。その後、正午の稽古終了時間まで大石神影流剣術の手数の稽古を行いました。形は先生から2本お手本を示して頂いた後、すぐに自らその形を実践するという形式で行われたのですが、自分は木刀の動きにしか注意が向かず、いざ実践するとなるとまるで動けないという状態が続きました。全ての稽古が終わり、解散する前に森本先生から「稽古をする上で大切な事は何なのか、常に意識をしなければなりません」とのお話がありました。

この二日間を通して、つまらない見栄を張り、手っ取り早く事をなそうとする横着な自分に向き合う事が出来ました。もつと素直に、もつと繊細に注意深く稽古をせねば、このまま足踏みをしていく状態からは決して抜け出せないと思います。

先生のおっしゃった「大切な事」とは何かを深く感じながら、道場内外での稽古を続けて参ります。この度は本当に貴重な時間を過ごさせていだき、誠に有難うございました。

(文責 濱村多賀司)



・夏合宿での古文書解説講義の様子



『廿日市市国際交流協会演武』

平成25年8月3日(土)に廿日市市の商工保健会館にて、廿日市市国際交流協会の主催する「第十一回」はつかいち平和ツアーIN広島2013」の中のイベント「平和ツアーウエルカムパーティー」に、森本館長・竹本師範・片岡潤一・竹林哲也・濱村多賀司・三崎俊広の6名が行って参りました。

廿日市市国際交流協会では、日本に留学されている外国の方を広島に招いて廿日市市にホームステイをして頂き、平和を通して国際交流をされていると行うことでした。

今回は、中国・台湾・香港・韓国・オーストラリア・インド・クロアチア・フィリピン・ミャンマー・キルギス・ガボン・インドネシア・ベトナムからの留学生とそのホストファミリーを合わせ、大変多くの方々の前で演武となりました。皆さん始めて目にする日本の古武道を真剣に観ておられ、演武終了後には大きな拍手を頂きました。

また後日、七尾道場に数名の方が稽古の見学に来られました。稽古の最後には、首を絞められた時のはずし方など、柔術の体験を少しして頂き皆さん大変喜んでおられました。今回、この

様な場で演武をできたことは、貫汪館に正しく伝わる古武道を外国の方々に知っていただく良い機会となったと思います。また、まだまだ多くの外国の方が、正しい日本の古武道を知らずにおられる事を知りました。その様な方々に正しい日本の伝統を知っていただく努力も必要である事を痛感いたしました。

(文責 片岡 潤二)



『貫汪館横浜講習会にて』

平成25年9月8日(日)、貫汪館横浜支部講習会が横浜市立あざみ野第一小学校体育館で開催されました。当日は未経験者の方をはじめ他流他武道経験者の方が神奈川県はもとより、東京、埼玉、千葉、栃木などの遠方からも参加されました。

今回の講習会は、午前中に大石神影流剣術の講習。午後からは無雙神傳英信流抜刀兵法の講習を館長指導のもと行い、横浜支部長と私とで指導のお手伝いをさせて頂きました。まず午前中の大石神影流剣術の講習は礼法から始まり、構え、素振りの稽古を行いながら流派で求められる立ち方、歩み方、理論、要求などの指導を受けました。続いて二人一組になり試合口・陽之表の最初2本まで。これらを先ほど指導されたことを踏まえながら、新たに間合い、形の注意事項などに注意しながら稽古して頂きました。午後からの無雙神傳英信流抜刀兵法の講習は礼法からすでに居合の稽古であること、座法の大切さ、形の想定などの指導を受け、大森流の初発刀、英信流の横雲の稽古をしていただきました。最後に、初発刀、横雲を館長と抜く写し取る稽古を行い講習会は終了となりました。

形の手順もうろ覚えの状態です。ひたすら館長の動きを写し取る中、どんな動きが良くなり動きが整って来るのを目の当たりにすることで「私心を交えずあるがままを写し取る稽古の大切さ」を改めて実感しました。

今回の講習会での指導経験を今後の稽古に活かして行きたいと思えます。

(文責 三崎俊広)

『貫汪館平成25年秋季昇段審査会』

平成25年9月15日(日) 廿日市市大野体育館において、貫汪館秋季昇段審査会を行いました。昇段審査会では、

皆さん日頃の稽古以上の動きをされ、全員合格、昇段しました。今回の昇段審査会は、皆様のご協力により無事に終わることができましたことを感謝いたします。今後とも宜しくお願いいたします。

今回の昇段審査に関して、横浜支部長・北大阪支部長より昇段審査会の感想を頂きましたので、以下に掲載いたします。

(文責 片岡 潤二)

『平成25年秋季昇段審査会にて』

平成25年9月15日(日) 平成25年度秋期貫汪館昇段審査会が廿日市市大野体育館において開催されました。受審者の一人として参加させて頂きましたので、その様子を報告させていただきます。

開会式では森本館長から「審査だからといって形を上手くしようとする必要はない。実力に見合った段位を受審するのだから、日頃の稽古どおり自信を持って受審するように。」などの注意を受けました。貫汪館顧問上條先生から、「貫汪館として三流派合同昇段審査会の開催おめでとうございます。受審される方は、森本先生からお話しがあったとおりいつもどおりの姿を見せてほしい。楽しみにしている。」とのお言葉をいただきました。

閉会式では、竹本師範から合格者の名前が読み上げられ「合格にはしたが、森本先生から各人に修正すべき箇所を指摘いただいた、合格したことに安心することなく、今後ご指摘いただいたところを克服するよう稽古しなければ次回審査では不合格もあり得る。」とのお話がありました。上條先生から午前中の部の講評として、「お疲れ様でした。とてもよくできていました。」とのお言葉をいただきました。同じく貫汪館顧問の岡田先生からの講評として「皆さんとてもお上手だったが、もっと肚を落とすといふ。ボーリングの球を飲み込みその球を肚に落とすイメージをしてやるといい。」

また、森本館長の教えどおりに稽古をするのは当然だが、目指すところは館長ではなくさらにそのもつと上を目指し、森本館長を越えるくらいのつもりで稽古をするように。稽古には常に疑問と工夫を忘れないように。」と具体的にわかりやすいアドバイスを激励をいただきました。最後に、森本館長から「今いるところを目標にしてはいけない。理想として求めているところにむかって進むように」とのお言葉をいただきました。私自身は幸いにも無雙神傳英信流抜刀兵法五段と大石神影流剣術三段を合格させて頂きました。遠く、いただいたアドバイスを基に今後さらに精進しなければと決意をあらたにいたしました。当日の進行に携わっていただきました皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(文責 横浜支部長・内住 信之)



『貫汪館昇段審査会』

平成25年9月15日(日)に廿日市市の大野体育館武道場にて、貫汪館昇段審査会は、講習会や合宿以外の行事として初めて参加しましたので、その感想を述べさせていただきます。

初めに、無雙神傳英信流抜刀兵法の審査です。審査では、特に高校生の無駄な力の入っていない動きに非常に感心しました。とても丁寧に指導して頂いたものがそのまま表現されていたと思います。次に大石

神影流剣術の審査がありました。構え、素振りから 始まり、試合口五本、陽之表、陽之裏を二組ずつ遣います。無駄なおしやべりは一切なく、静けさの中で粛々と進行しました。

午後は澁川一流柔術の審査で、私は午前中の部で審査が終了してしまいましたが、三瓶での合宿以来興味があった柔術をじっくり拝見することができました。非常に多彩な攻防であり、形の数も多いのですが、各自のペースで行われたのにもかかわらず、演武者の入れ替えなどが整然と行われ、予定時間より早く審査が終わりました。

閉会式では、合格発表があり、私は幸いにも無雙神傳英信流抜刀兵法及び大石神影流の審査に合格させて頂きました。その際に「とりあえず合格」という竹本師範からのお言葉もありました。これは私個人に言われていたことだと感じております。相手をしてくださった方々に引つ張っていただいた賜物と感謝しております。また、貫汪館顧問岡田先生の「館長を越えるように稽古に取り組むように」との講評と、森本館長の「私を目指すのではなく、私の目指すところを目指してほしい」とのお言葉を頂き、非常に重い激励の言葉と肝に銘じ、今後もしっかり稽古を重ねて行きたいと思えます。

(文責 北大阪支部長・堂元 慎介)

